

# 日本細菌学会 平成 29 年会務総会記録

日時：平成 29 年 3 月 20 日（月）13：50～15：00  
会場：仙台国際センター・1 階展示室 1

年次学術総会長である赤池孝章氏が議長を務めた。

## I. 物故会員報告

堀口理事長より、平成 28 年 3 月 11 日～平成 29 年 3 月 14 日に逝去された名誉会員 1 名（中谷林太郎氏）、正会員 1 名（川本英一氏）の物故会員について報告があり、出席者全員で黙祷が捧げられた。

## II. 会務報告

### (1) 会員の現況

川端総務理事より、平成 29 年 2 月 28 日現在の会員数について、名誉会員 40 名（+1 名）、正会員 1,833 名（-57 名）、学生会員 525 名（+14 名）、賛助会員 37 社（-5 社）[いずれも（）内の数字は、今年の会務総会報告で報告された数字との差]であることが報告された。

### (2) 各種部会活動

広報担当の中川理事より以下述べられた

- ・会員登録情報の変更が必要な場合には、学会 HP の OHASYS からご対応いただきたい
- ・入会フォームを新規に作成し、HP にアップする
- ・総会終了後、総会に関するアンケートを送るので、多くの皆様にご回答いただきたい

選挙担当の八木理事より、本年が役員選挙であること、また、実施方法を電子化することが報告された。

用語担当の八木理事より、用語集について今後は Web 版として発行していくことが報告された。

学会誌担当理事の大西理事より、2016 年は第 71 巻を 4 号発行したこと、本年も第 72 巻として 4 号（J-stage で）発行することが報告された。

また、これまで本会学会誌は Pubmed 採択誌であったが、今後も同採択誌として維持していくための対応を行っていることが報告された。

IUMS 担当の古西理事より、本年は 3 年に 1 度開催される IUMS 開催年であること、会期は 7 月 17 日～21 日まで、シンガポールの Marina Bay Sands で開催されることが報告された。

演題登録も開始されているとのことであった。

日韓微生物等担当の桑野理事より、2018 年の日韓国際微生物学シンポジウムについて、例年は総会の前日に開催されているが、今回は総会期間中に実施されること、また、同シンポジウムの担当者は来年の総会長（林 哲也氏）となることが報告された。今後韓国側とプログラムを詰めていくとのことであった。

教育担当の松下理事より、細菌学若手コロッセウムについて以下報告がなされた。

- ・2016 年に実施された第 10 回は本会から約 10 万円を支援した
- ・本年の第 11 回は、筑波大学の野村暢彦先生が代表世話人となる
- ・細菌学若手コロッセウムとは、本会以外の学会からの参加者もいる、所属学会の枠を超えて切磋琢磨することを目的とした学術集会であり、いずれの学会からも独立した学術集会である

- ・支援の成果を本会にフィードバックしていただくために、本会総会においてコロッセウムでの発表内容をベースとした冠シンポジウム等の企画を提案していただきたい
- ・本コロッセウムを通じて本会会員数を増やすことを目指したい
- ・本コロッセウムは若手人材の宝庫のため、研究者の雇用についても参考になる場である

千葉大学の野田公俊氏にご尽力いただいている初等教育において、2016年度は21校で開催され、3018名の受講があったことが報告された。本活動の継続にあたっては15万円を予算化していること、また、今後の本活動において各支部総会でアンケートしていくことも述べられた。

2016年に作成した細菌学教育用映像素材集（動画第2版）は本総会でも販売中であることが報告された。

MI誌担当の川端理事より、MI誌の契約について、2017年～2019年まで更改したことが報告された。3学会（日本細菌学会、日本ウイルス学会、日本生体防御学会）において、本会の出版に係る負担費用を下げてもらうこと、Royaltyについて4%から8%に上げてもらい、収入が増えることになったこと、契約ページ数について、投稿ページに準じて増加してもらうことになった旨報告された。これまでの年間予算は約150万円前後であったが、30万円前後になるとのことであった。

また、Impact factorについては、一昨年が約1.2、昨年が約1.4、直近は約1.5であることも述べられた。

### (3) 名誉会員選考経過

光山名誉会員選考委員長より、平成28年10月24日に行った選考において、推薦された太田房雄氏、小熊恵二氏の2名を新名誉会員として選考したことが報告された。

### (4) 学会賞選考経過

中根学会賞選考委員長より、平成28年10月25日に開催した選考委員会にて、浅川賞は中山浩次氏、黒屋奨学賞は住友倫子氏を選考したことが報告された。

### (5) 平成28年度収支決算

堀口理事長より、会場前方のスクリーンに表示された平成28年度決算書をもとに報告がなされた。本会計は1,407,773円の黒字決算となったとのことだった。

平成27年から発足した現執行部において、平成22年度から生じている赤字決算をどのようにして黒字転換するかを検討し続け、直近2年間は各種事業を圧縮することにより黒字決算にすることができた。ただし、事業圧縮には限界があり、また、本会の収入源となる会費は、会員数が減少し続ける限り減り続けるため、将来の見通しが明るいわけではないことが述べられた。会員数の増については、学会の方針やコンセプトを大きく変換させないと難しい問題であるとのことであった。

### (6) 平成28年度会計監査

大原監事より、平成29年2月8日に関水会計理事同席のもと、三宅監事とともに会計監査を実施し、決算報告内容に間違いがないことを確認したことが報告された。

### (7) 平成29年度収支予算

堀口理事長より、会場前方のスクリーンに表示された平成29年度予算書をもとに説明がなされた。本年度から支部会費制度を廃止したことにより、その分の会費収入の増を期待していたが、賛助会員を含めた会員数の減少により、思っていたほどの予算結果にはならなかったことが述べられた。単年度収支としては約91万円の黒字予算になるとのことであった。

### (8) 第10回細菌学若手コロッセウム終了報告

代表世話人である富田治芳氏より、以下報告がなされた。

- ・2016年7月31日～8月2日まで、草津セミナーハウスで開催した
- ・参加者数は57名であった

- ・次回世話人の野村先生を含め、3名による特別講演を実施した
- ・参加者を全8グループに分けてそれぞれがポスター作成を行った。別グループが作成したポスターを発表するという、一風変わった発表形式を行った
- ・優秀発表者を表彰した
- ・運営努力や開催地により、日本細菌学会からの支援費を10万円以内に抑えることができた
- ・今回は筑波大学の野村暢彦先生が代表世話人となり実施される

(9) 次期(第91回総会)総会長挨拶

林 哲也総会長より、会期は平成30年3月27日(火)～29日(木)、会場は福岡国際会議場、また、本総会では初めて日韓国際微生物学会を総会期間中に組み込むことが報告された。日韓国際微生物学シンポジウムについては、日韓共同研究に繋がるようなシンポジウムの実施や、若手研究者が多く集うことを目標にしていることが述べられた。

(10) 次々期(第91回)総会長挨拶

赤池議長より、3月18日に開催された評議員会にて、理事会から推薦された山口博之氏の就任が承認されたことが報告され、同氏より挨拶がなされた。学会の財政状況により、手作り感のある総会になる可能性もあるが、支部会内(北海道支部)で協力し合って準備していきたい、とのことであった。

(11) その他

- 1) 堀口理事長より、名誉会員選考細則において、軽微な文言の修正を行ったことが報告された。
- 2) 選挙細則において、以下をポイントとして改訂したことが報告された。

評議員選挙細則において

- ・全国区選出と支部別選出があったが、区別を無くした。  
全国レベルで顔の見える方々に評議員に就任していただきたい。
- ・評議員の総数は現状の約130名から約80名前後に変わる
- ・投票数の最上位順に選出していく

理事選出において

- ・自身の所属支部や、自身の専門分野内でのみ選出する縛りをなくした

- 3) 川端理事より、法人化の進捗状況について報告された。

昨年の総会で法人化を検討することについて承認されたことを受け、それ以降、司法書士を交えて定款案作成や、その他各種を検討してきた。法人化すると、固定費が現状よりも多く発生するため、今後は財政面を中心に検討をしていくとのことであった。

### Ⅲ. 学会賞授与式

堀口理事長と、寄贈元である学校法人北里研究所・常任理事の東原正明氏より、中山浩次に浅川賞が授与され、黒屋奨学賞は住友倫子氏に授与された。

その後、東原氏から祝辞が、受賞者の中山氏と住友氏より受賞の感想が述べられた。